

事項	デルフィニウムの花持ち延長を可能にする出荷前処理技術		
ねらい	デルフィニウムの鮮度保持技術で前処理に用いられるクリザールK-20Cについては、生産者によって使用方法にバラツキがあり、これが出荷後の落花や萎凋等の問題を引き起こしている。そこで幾つかの処理条件で前処理を行ったところ、日持ち日数を延長する効率的な処理条件や、採花ステージ、輸送時の水分ストレスが日持ち日数に及ぼす影響が明らかになったので参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 採花</p> <p>(1) ブルーキャンドル（エラータム系）は花穂の1/3程度が開花した時点で採花するのが良い（切り前3採花）。</p> <p>(2) ハイランドブルー（シネンシス系）は上から3本の側枝についている小花が色づいた時点で採花するのが良い（切り前1採花）。</p> <p>（注）切り前は「花の切り前」1994年 誠文堂新光社を参考にした。</p> <p>2 前処理</p> <p>(1) ブルーキャンドル、ハイランドブルーともクリザールK-20C 2,000倍希釈液で、5時間～15時間処理することで十分な日持ち延長効果が得られる。</p> <p>(2) ハイランドブルーではクリザールK-20C 500倍希釈液で5時間～15時間処理を行った区、及び1,000倍希釈液で15時間処理を行った区において、葉先の縮れ、葉裏の黒斑、早期萎凋等の症状を示す銀吸収過剰障害が観察された。</p> <p>3 出荷</p> <p>(1) 前処理後、4～6時間の乾式静置により2日程度日持ち日数が減少するので、給水しながら輸送する湿式輸送は日持ち延長に有効な輸送方法である。</p> <p>（注）乾式静置は乾式横箱輸送を想定</p>		
期待される効果	<p>1 早期落花や早期萎凋が回避される。</p> <p>2 日持ち日数が延長し、かつ安定することで市場での評価が高まる。</p>		
利用上の注意事項	<p>1 希釈したクリザールK-20Cは原則として1回使用が望ましい。</p> <p>2 採花の遅れた切り花は、前処理によって落花や萎凋を防止できない。</p> <p>3 採花の条件は春定植、夏切り栽培に適用でき、秋冬期に採花する場合については検討していない。</p> <p>4 前処理の条件は、常温の場合に適用でき、冷蔵庫で前処理を行う場合については検討していない。</p>		
担当	青森県農林総合研究センターフラワーセンター21あおもり	生産技術部	対象地域 県下全域
発表文献等	平成16～17年度 フラワーセンター21あおもり花き試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

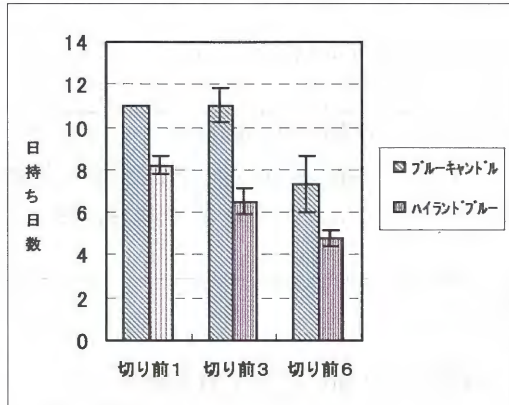


図1 採花ステージと日持ち日数  
(平成16年 青森農林総研フラワーセ)

- (注) 1 クリザールK-20C 1,000倍で15時間処理  
2 ブルーキャンドルを切り前1で採花した場合には花穂の上部に色抜けが見られる

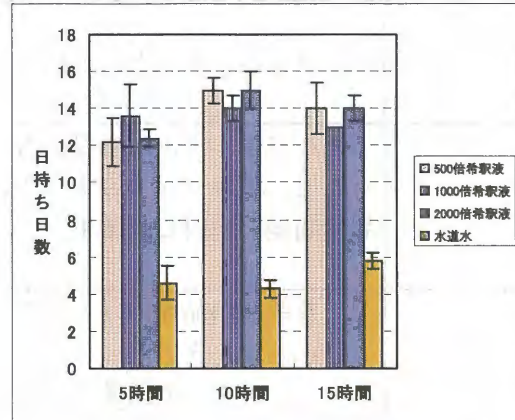


図2 クリザールK-20Cの処理条件と日持ち日数  
[ブルーキャンドル]  
(平成17年 青森農林総研フラワーセ)

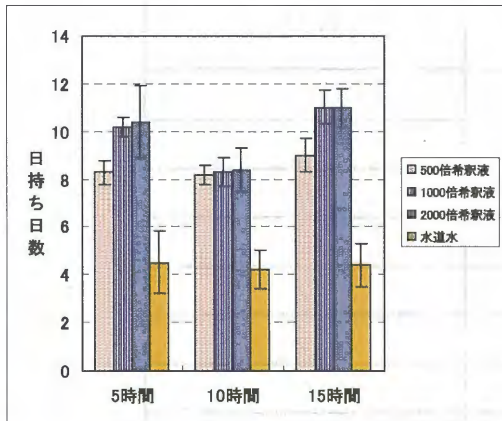


図3 クリザールK-20Cの処理条件と日持ち日数  
[ハイランドブルー]  
(平成17年 青森農林総研フラワーセ)



図4 ハイランドブルーにおけるクリザールK-20Cの銀吸収過剰障害  
(平成17年 青森農林総研フラワーセ)  
(注) クリザールK-20C 500倍で15時間処理

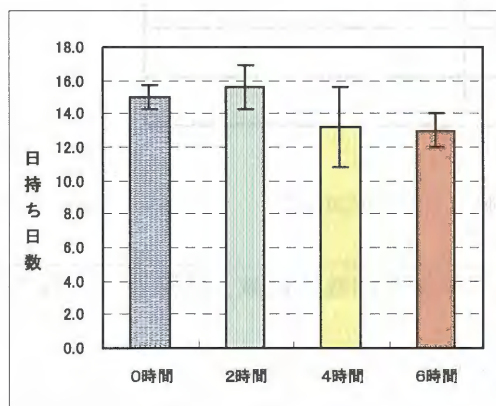


図5 前処理後の乾式静置時間と日持ち日数  
[ブルーキャンドル]  
(平成17年 青森農林総研フラワーセ)  
(注) クリザールK-20C 2,000倍で15時間処理

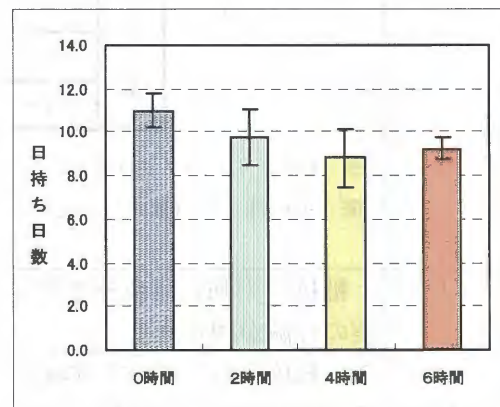


図6 前処理後の乾式静置時間と日持ち日数  
[ハイランドブルー]  
(平成17年 青森農林総研フラワーセ)  
(注) クリザールK-20C 2,000倍で15時間処理